令和3年度　学校評価総合シート　保護者①

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	児童生徒の身に付けたい力を明確化し、新学習指導要領の指導内容に基づいた個別の指導計画を作成し、学習の成果を把握する。	保護者	子どもに身に付けたい力を明確化するために担任などと十分に話し合うことができたか。（満足度指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	81 69 3 0 1	53% 45% 2% 0% 0%	達成	身に付けたい力を明確化した指導計画作成のために、連絡帳や懇談会を通して保護者と十分に話し合えた成果であると思われる。しかし、少数ではあるが、十分と思われない保護者もいらっしゃるので、今後も保護者の思いに十分に寄り添う必要があると思われる。	今後も身に付けたい力を明確化していくために連絡帳や保護者との話し合いを大切にし、保護者の思いに寄り添うだけでなく、子どもたちの学びに向かう力や、問題解決能力の評価にも共感していってもらえるような伝え方の工夫が必要と考えている。
	新学習指導要領に基づき、児童生徒の身に付けたい力を明確化した授業づくりに取り組む。	保護者	日々の様子や連絡帳、担任との話し合いなどから、子どもの成長を感じることができたか。（満足度指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	93 54 6 0 1	60% 35% 4% 0% 1%	達成	懇談会や日々のやりとりを通して、子どもの頑張っている姿や伸びた点などを伝えることで、保護者にも成長を感じていただけたと思う。ただ、コロナ禍で直接話をする機会が少なかったことで、十分に伝えきれなかったこともあった。	今後も直接接する機会は少ないと思われるので、保護者懇談会等で、保護者と身に付けたい力を共有した上で、どう伸びたかをより具体的に伝えていくようにしていきたい。
生徒支援	学校の人権教育の取組や学習の様子を保護者に発信し、家庭と連携を図る。	保護者	学校のいじめ防止を含む人とのかかわり方についての取組を、学部便りや連絡帳等を通じて知ることができたか。（満足度指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	55 87 14 1 2	35% 55% 9% 1% 1%	達成	いじめ防止を含む人とのかかわり方に関する取組などを、各学部だよりに学期に一度ずつ掲載したり、人を傷つけてはいけないということについて各学部の教職員が意識を持って支援・指導を行い保護者に発信したりした成果と思われる。	今後も定期的に学部だよりや生活指導通信を通して保護者に発信していく。学習の様子や取組についてしっかり伝わるように掲載の仕方を工夫するなど、中身を充実させていきたい。
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	保護者	保護者懇談会や進路希望調査、説明会、相談会などを通して、卒業後の生活に関する情報を入手できたか。（満足度指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	57 80 14 2 1	37% 52% 9% 1% 1%	達成	様々な機会を通じて、児童生徒の進路実現に関する情報を提供することができた。保護者が日頃から感じている希望や不安を、さらに的確に把握できるとよい。	進路希望調査の結果や保護者懇談会の内容について、担任教諭と連携して情報共有を図る。保護者の抱く希望や不安を把握し、適切に情報を提供する。
保健防災安全	感染症に配慮した避難訓練や引き渡し訓練、防災研修を行い、教職員一人一人が具体的な役割について理解する。	保護者	「防災だより」や学校HPを通して学校での防災訓練や防災研修など災害時の取組を知ることができたか。（満足度指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	54 87 11 1 1	35% 56% 7% 1% 1%	達成	学期末に防災だよりを発行したり学校HPに訓練の様子を掲載したりした。目標は達成したが判定がCやDの回答もあるので、内容等について検討が必要である。	学校で行っている避難訓練や教職員対象の防災研修の様子は毎回写真も含めて掲載している。その他に防災に関する記事の掲載もあり、印刷すると字が多くなり読みづらいかもしれない。次年度は記事の内容や文字数を見直していきたい。

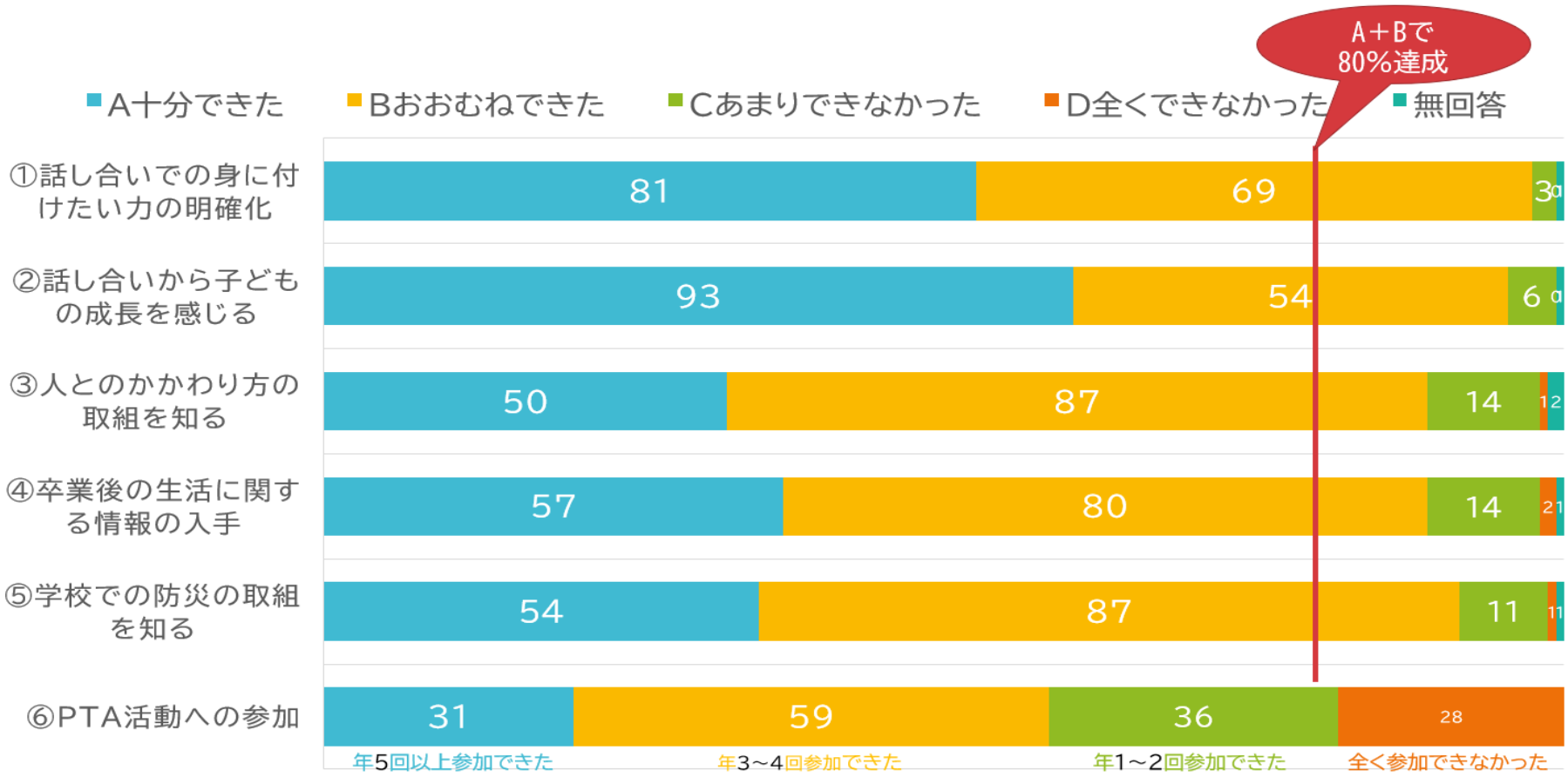
PTA活動アンケート（学校評価アンケート付属）

回答	観　点	判定基準		
保護者	PTA活動に何回参加できたか。 ・PTA新聞を読む・投稿する ・推進委員選出をする ・総会資料を読み決議書を提出する ・制服等リサイクルに参加（提供・利用）する ・各種事業案内等を読む ・ベルマークに協力（ベルマークを集める）する ・役員会（紙面開催）等に参加する	A B C D	31 59 36 28	20% 38% 23% 18%

「D全く参加できなかった」の理由

日常的なこと	3
内容的なこと	0
関心が無い	0
家庭の都合	8
その他	15

令和3年度　学校評価総合シート　保護者②

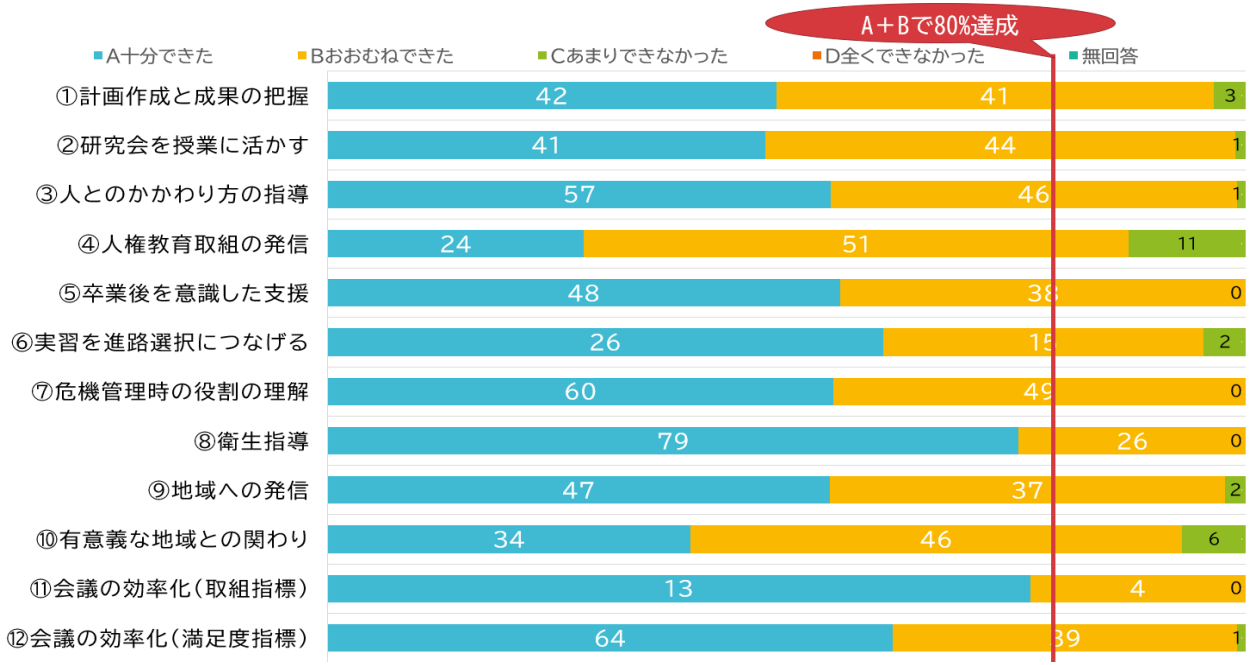


令和3年度　学校評価総合シート　教職員①

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	児童生徒の身に付けたい力を明確化し、新学習指導要領の指導内容に基づいた個別の指導計画を作成し、学習の成果を把握する。	小中高教員	身に付けたい力を明確化した指導計画を作成し、適切に学習の成果を把握する。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	42 41 3 0 0	49% 48% 3% 0% 0%	達成	身に付けたい力を明確化した指導計画作成のために、授業担当者が保護者と十分に話し合い、更に年間計画を見直す中で、学習指導要領を十分に読み込み、指導計画に教科ごとの指導内容を適切に取り入れて作成した成果であると思われる。	今後も児童生徒の身に付けたい力を適切に把握し、明確化した目標を設定するために、教職員同士の話し合いを大切にし、共通理解を持って指導に当たる必要がある。また、適切に評価するために、3つの観点を意識した評価について考えていきたい。
	新学習指導要領に基づき、児童生徒の身に付けたい力を明確化した授業づくりに取り組む。	小中高教員	学部研究会等で身に付けたい力や授業内容について、話合いを設け、授業づくりに活かす。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	41 44 1 0 0	48% 51% 1% 0% 0%	達成	教員間で身に付けたい力を検討し、それに基づいて授業内容や支援方法について話し合うことで、子どもの目標を教員間で共有しながら、授業を行えた。	今後も、身に付けたい力を明確にした授業づくりを行うため、学部会等で、子どもの実態に合わせた年間指導計画を作成、見直しを行っていく。また、目標については共有できたので、評価についても、授業研究会等で話合いをしていきたい。
生徒支援	教職員が人権意識を高め、人とのかかわり方についてきめ細かな支援・指導を行い、積極的にいじめ防止に努める。	教職員（栄、事、給校除く）	児童生徒がよりよい人間関係を築けるように、教育活動全体を通して、人とのかかわり方について積極的に支援・指導を行う。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	57 46 1 0 0	55% 44% 1% 0% 0%	達成	児童生徒がよりよい人間関係を築けるようになるために、係が各学部主任と連携して指導すべき内容や方法について改めて考え、授業実践やアンケート調査を行ったことで、各学部の教職員の意識を高めることにつながった成果と思われる。	今後も指導の内容・方法を検討しながら授業実践を行っていく。また、より一層教職員の人権意識を高めるため、各学部会や職員会議で各学部の取組を紹介したり、いじめ対策委員会として積極的にいじめ防止について発信していきたい。
	学校の人権教育の取組や学習の様子を保護者に発信し、家庭と連携を図る。	小中高教員	人権教育の取組について、お便りや連絡帳等を通して保護者に発信する。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	24 51 11 0 0	28% 59% 13% 0% 0%	達成	いじめ防止を含む人とのかかわり方に関する取組などを定期的に各学部だよりに掲載することを決め、内容について話し合ったり、各学部の教職員が意識を持って取り組み、積極的に保護者と連携を図ろうとしたりした成果と思われる。	教師一人一人が人権意識を高く持ち、いじめやトラブル防止、人とのかかわり方について、より計画的に指導を行いながら、今後も定期的に学部だよりや生活指導通信、連絡帳等を通して保護者に発信していく。
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	小中高教員	授業や学校行事などの様々な場面の中で、児童生徒に対して卒業後の生活を意識した支援をする。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	48 38 0 0 0	56% 44% 0% 0% 0%	達成	日々の学校生活における進路支援の実践やその方法を、改めて学校全体に対して意味づけることができた。児童生徒の将来に対する関心が、教職員の中で高まっていると感じる。今後もその高まりを継続、発展できるとよい。	実際の支援方法を集約し、それらを教職員に対して周知して、日々の学校生活における進路支援が、より実践しやすいものになるよう、情報提供を行う。また教員を対象とした進路支援に関する学習会を催す。
	高等部における産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	高等部教員	産業現場等における実習を生徒の進路選択につなげる。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	26 15 2 0 0	60% 35% 5% 0% 0%	達成	産業現場等における実習をふまえて、日々の学校生活や学習活動のなかで、高等部生徒が進路選択について意識する機会を設けることができた。実習の準備や振り返りについて、教職員間の連携をさらに深められるとよい。	実習前に行う教員対象オリエンテーションの内容を充実させ、教職員が実習の準備や振り返りをしやすくなるように支援する。
保健防災安全	感染症に配慮した避難訓練や引き渡し訓練、防災研修を行い、教職員一人一人が具体的な役割について理解する。	教職員（給校除く）	訓練や研修の際に危機管理マニュアルやアクションカードに目を通し、流れや役割を理解する。（取組指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	60 49 0 0 0	55% 45% 0% 0% 0%	達成	今年度の訓練や防災研修のたびに危機管理マニュアルやアクションカードに目を通す機会を設けた。教職員一人一人の防災に対する意識が高まった。	R4年度に向け危機管理マニュアルの全面改定を行う。見やすい内容を心掛け、一人1冊携帯する価値が持てるようにしていきたい。
	感染症対策を徹底し児童生徒、教職員が衛生面に留意し感染防止に努める。	教職員（事、給校除く）	手洗い週間やほけんだよりを活用し児童生徒に正しい手の洗い方や適切なマスクの着用など衛生指導を行う。（取組指標） 【目標指数】 A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	79 26 0 0 0	75% 25% 0% 0% 0%	達成	「手洗いチェッカー」や「おててぽん」などの使いやすい教材を用意したり、ほけんだよりにイラストを用いて正しい手の洗い方やマスク着用の仕方を繰り返し掲載したりすることで日々の指導に生かすことができた。また石けん液を十分に用意し必要なところに配付することができた。	今後も継続して教材や消耗品などの管理や広報、補充を行い、指導しやすい環境を整えていく。

令和3年度　学校評価総合シート　教職員②

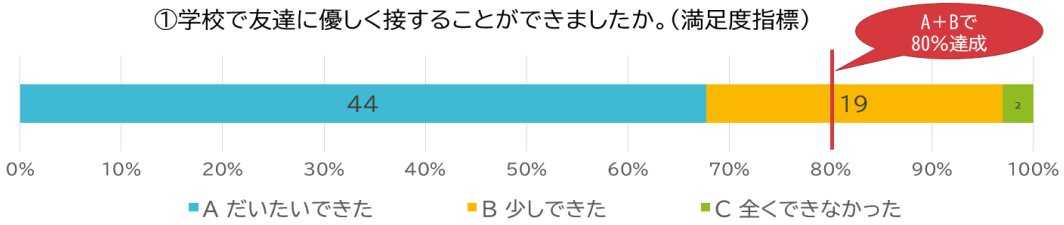
項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
地域交流	地域(家庭・福祉・医療等)と連携し、特別支援教育に関する理解を促す。	小中高教員	家庭や地域、関係機関と連絡を取り、本校の教育活動について発信し、児童生徒についての理解を求める。(取組指標) 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	47 37 2 0 0	55% 43% 2% 0% 0%	達成	連絡帳、学部だより、HPなどで本校の教育活動について発信した。また、関係機関との支援会議で、本校児童生徒について必要な情報を提供し、今後の必要な支援について共通理解を図った。	児童生徒の状況を的確に把握し、必要に応じてより速やかに家庭や地域、関係機関と連携が取れるよう努めていきたい。
	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動を通して、地域の人とかかわる機会を設け、より有意義な交流活動となるよう工夫する。	小中高教員	活動のねらいや目標について検討し、より有意義な地域とのかかわりができるよう工夫する。(取組指標) 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	34 46 6 0 0	40% 53% 7% 0% 0%	達成	居住地校交流や校外学習、地域交流のねらいについて事前に担当者間で話し合いを行い必要に応じて共通理解を図った。事前学習等を通して児童生徒が目標を持って地域とのかかわりに臨めるように支援した。	児童生徒一人一人にとっての地域とのかかわりにおけるねらいを検討し、相手先と共通理解を深めながら交流を行っていきたい。
組織運営	校内メッセージやオンライン会議の活用を行い、短時間でかつ参加意識の高い会議になるように工夫をする。	教職員(運営委員会)	校内メッセージのやりとり等を活用し会議の回数を減らしたり、会議資料を事前に配布(配信)したりする。(取組指標) 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	13 4 0 0 0	76% 24% 0% 0% 0%	達成	スクールウエア(SW)内の会議室で意見交換したり、メッセージにコメントを付けたりして、実際に集合して行う会議を減らした。SWで意見を求める場合、必要な資料を配信する必要があったので、事前配信ができた。集合型であっても事前に資料配布(配信)することで会議時間を短くする工夫ができた。	感染症予防の観点からも集合型の会議をすることが難しい。今後もSWの機能を活用し、意見交換、集約の際にも集まらなくても良い方法を探っていきたい。
		教職員(事、給校除く)	校内メッセージのやりとり等を活用し会議の回数を減らす工夫や、会議資料を事前に配布(配信)する姿勢が見られたか。(満足度指標) 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	64 39 1 0 0	62% 38% 1% 0% 0%	達成	会議資料が事前配布(配信)されることで、自分の担当する業務について振り返り、意見を持って会議に参加することができた。	実際に顔を合わせないことも増えるため、自分のペースで仕事が進められる反面、任せられっぱなしになることもある。分担した業務がきちんと進められるように会議や打合せなどに自分の意見を持って参加するようにしたい。



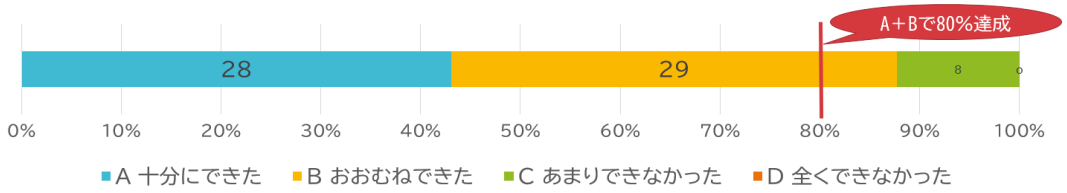
令和3年度　学校評価総合シート　生徒

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
生徒支援	教職員が人権意識を高め、人とのかかわり方についてきめ細かな支援・指導を行い、積極的にいじめ防止に努める。	高等部A・B課程生徒	学校で友達に優しく接することができたか。（満足度指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C	44 19 2	68% 29% 3%	達成	執行部として思いやりアンケートを実施し、思いやりのある行動について紹介するなどして啓発を図ったり、教職員があらゆる場面で人とのかかわり方について意識をもって支援・指導に取り組んだ成果と思われる。	指導部として、今後もアンケート調査を行い、その結果を担任に返すことでクラスや特定の生徒に対する指導に生かせるとよい。また、いじめ防止を含む人とのかかわり方やストレスの対処法など、授業の中でより具体的に学ばせていきたい。
進路支援	高等部における産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	高等部生徒	産業現場等における実習を経験して、進路選択について考えることができたか。（成果指標） 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D	28 29 8 0	43% 45% 12% 0%	達成	産業現場等における実習を経験することによって、高等部生徒に進路選択について考える機会を設けることができた。生徒が自分の希望する実習先に行けるようにできるとよい。	進路希望調査や保護者懇談会、生徒との懇談等の内容を担任教諭と共有して、本人に適切な実習先を提供して、生徒が主体的に進路について考えられるようにする。
保健防災安全	感染症対策を徹底し児童生徒、教職員が衛生面に留意し感染防止に努める。	高等部A・B課程生徒	正しい手の洗い方や正しいマスク着用ができたか。（満足度指標） 【目標指数】Aが80%以上	A B	60 5	92% 8%	達成	正しい手洗いやマスク着用について、啓発ポスターを掲示したり、手洗い動画を見たりすなどクラスやグループ単位で実践することで、児童生徒に分かりやすく伝えることができた。	生徒の意識継続のためにも、今後もポスターなどを用いて分かりやすく掲示したり、学習の中に位置付けたりするなど継続して指導を行っていく。

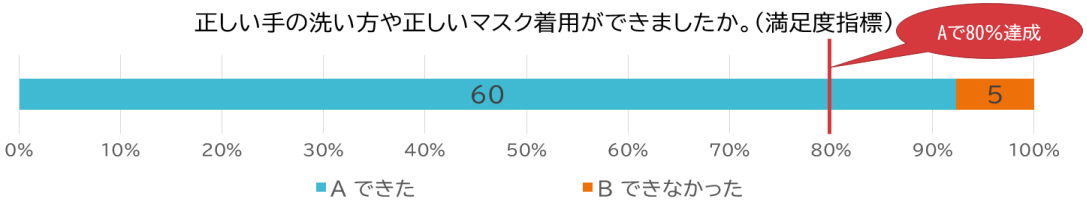
①学校で友達に優しく接することができましたか。（満足度指標）



②産業現場等における実習を経験して、進路選択について考えることができましたか。（成果指標）



正しい手の洗い方や正しいマスク着用ができましたか。（満足度指標）



B　できなかった理由	票数
手洗いの順番が分からなかった	1
あごがあいていた	1
めんどうくさい	1
最初から覚えているが、途中で分からなくなった。	1
正しい手の洗い方が分からなかった。	1

令和3年度　学校評価総合シート　交流先（100%のためグラフは割愛します）

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
地域交流	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動を通して、地域の人とかかわる機会を設け、より有意義な交流活動となるよう工夫する。	交流の相手先	ねらいに即した地域とのかかわりができたと感じることができたか。（満足度指標）	A	104	100%	達成	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動後、相手先にアンケートを行った。「回を追うごとに活動がスムーズになっていた。子どもと社会のかかわりのため、このような企画、取り組みには積極的に参加していきたい。」「楽しい雰囲気で進行していただき、話すことが苦手な本校の特学の生徒も、いつもより積極的に話すことができてよかった。」「いろいろと質問をいただき、関心を持っていただけたと感じられて良かった。」などの感想が寄せられ、お互いにとって貴重な交流の機会となっていることがうかがえた。	今後も、ねらいに即した地域とのかかわりをしていくために、交流などの地域とのかかわりを実施する度に相手先からの感想を（何らかの形で）聞き取りそれを次回の交流などに活かすことで児童生徒にとって交流のねらいがより達成できるようにしていきたい。
				B	0	0%			
			【目標指数】Aが80%以上						

自由記述（その他、良かったことなどお気付きの点）

小学部（付記無しは交流先の学校の教員）

- 児童は回を追うごとに買い物にも慣れ、スムーズになってきた。子どもと社会のかかわりのため、このような企画、取り組みには積極的に参加していく所存です。（移動販売車企業）
- 女の子同士話したり、関わったりする場面が見られて良かった。初めての場所が不安と聞いていたが、スムーズに教室に入って活動に参加できたので安心した。
- 保育園から一緒だったので、来るのを楽しみにしていた。隔たりなく、彼らなりに上手に関わっていてよかった。今までの繋がりを大事にしていきたい。
- こちらの児童が「もっとこっち持って」と話しかけたら、話しかけられた方を見ようとする反応があった。
- 大勢の前で物怖じせず自分のことを言えたので、クラスの子ども達も接しやすかったように思う。
- 制作を楽しんでいるように見えた。最後に発表してくれたのもよかった。
- こちらの児童が「ダンスが上手だね」と言っていました。
- 声が出ていて楽しそうだった。
- 自己紹介では自分の好きな物を発表できていて素敵だった。新聞遊びや玉入れを楽しんでいる様子が見られて良かった。近所の顔見知りの児童とまたの機会にもう少し仲良くなれたらいいなと思う。
- 発表をがんばっていた。粘土を一生懸命作っていた。耳をおさえてつらそうな時もあったが、同じ場所で雰囲気を味わっているようだった。
- 周りの子に作品を見せていた。クリスマス会に興味を持って参加していた。隣にいた児童と笑い合っていた。
- こちらの男子が作った信号をずっと持ったまま活動していたので、気に入ってくれたのだと嬉しかった。
- お姉さんが上手に気配りしており、みんなで一緒になって活動できていた。
- 自己紹介のとき、こちらから渡す名刺を受け取ってくれた。
- 一緒にバルーンや楽器ができた。

中学部（交流先の学校の教員）

- 楽しい雰囲気で進行していただき、話すことが苦手な本校の特学の生徒も、いつもより積極的に話すことができてよかった。作品の交流など、とても楽しかったと話していた。リモートという形が生徒にあっていたのか、緊張も少なかった。同級生が特学にいないため、良い経験だった。手紙や今の様子などの情報交換など、交流が続けられるといいと思う。
- たくさん話してくれて、また作品を見せてくれて、本校の生徒は驚き感心した。そのことがこちらの生徒にもとても刺激になった。互いにその場で質問ができ、親しみを感じることもできたので、もし町内で会うことがあったら、笑顔で手を振ったりできるかもしれない。本校の生徒も、自分たちの学校行事の思い出を伝えることができ、聞き手を意識した話し方のよい経験となった。

高等部（実習先）

- いろいろと質問をいただき、関心を持っていただけたと感じられて良かった。（3票）
- 素直に指示を聞き、一生懸命作業に取り組んでくれた。
- こちらが思っていた以上に、しっかり作業に取り組んでいた。
- いつも丁寧に作品を仕上げていただき、たいへん助かっています。
- 職員の指示や説明を落ち着いてしっかり聞くことができていた。
- 挨拶や返事がとても元気があってよかった。
- 一人一人に合った形で一生懸命清掃に取り組んでくれて助かった。安全に配慮した上でできるなら、伸びた草を切るなどしてもらえると嬉しい。
- 生徒さんのキラキラした姿にこちらも元気をいただいています。
- 生徒さんが楽しそうに活動していて良かった。
- 他の利用者と声を掛け合い、息を合わせた仕事ができていた。
- 利用者の一員であるかようになじんでいた。